

大阪・関西万博 国際交流プログラム

4月に開幕を控える大阪・関西万博。参加国との親睦を図る万博国際交流プログラムに県内市町で唯一参加する愛南町でも、本番に向けた準備が進められている。地元の高校生が中心となり、町とカナダの特産品を使った商品開発に挑戦中だ。

同プログラムは、地域活性化や人材育成を目的に、参加国と自治体の交流を内閣官房が支援する。全国で154件(19府県76市区町村)が登録。愛媛では県がモザンビークを、愛南町は南宇和高校が海外研修を行うカナダを相手国に選んだ。交流事業の柱となる商品開発には、同校の地域振興研究部が取り組む。生徒は養殖マタイや愛南ゴールド、サーモンやメープルシロップといった両地域の特産品を組み合



レシビ開発とともに進める商品名やパッケージデザインの案

スープで Hello! 愛南とカナダ

合わせたスープを考案。料理研究家の近藤一樹さん(兵庫県西宮市)の指導を受け、昨年末から改良を重ねている。一方、スープ自体はタイだしの味が好評だったが「だしのうまみが海外の人に理解してもらえないか」と悩んだ。2月下旬、同校で試作があった。この日はスープレットの方向性を固めるため、タイだしとマタイベースに生クリーム、豆乳をそれぞれ加えた計3

南宇和高生 商品開発に挑戦

種類を作った。生徒は具く合わせる形でブラッシー材たっぷりのチャウダーに仕上げ、試食した関係者からは「満足感があっていい」「サーモンをメ



近藤さん(右から2人目)の助言を聞きながら、調理に取り組む南宇和高生

特産品組み合わせ タイだしベース 試作重ねる

に商品名やパッケージデザインを含め完成させる。万博でのお披露目は5月末の予定。会場に愛南町ブースを設け、生徒も現地入りしてPRする。取り組みのリーダー役の1年九能三河さん(16)は「ようやく完成に見通しがたつた」とほっとした表情。昨年のカナダ研修を経験しており、思い入れは強いという。「スープをきっかけにもっと関係が深まればいい。ふるさと納税の返礼品になる可能性があるとも聞いたので、よりよいものにして町に貢献したい」と力を込めた。町によると、10日に同校生対象のカナダ外交官のオンライン講座を実施。今後とも同国とのさまざまな交流事業を検討していく。(山本憲太郎)



完成したスープを食べ比べる南宇和高生